

昭和63年度 和歌山県文化賞

う え や ま し ゅ ん ぺ い
上 山 春 平

住 所：京都府京都市

生 年：大正10年

親交が深く、同会議の本県での開催に大いに尽力された。

◎業績及び経歴

氏の父は、父祖伝来の土地、金屋町の出身であるが、若き頃より台湾に移住。氏は台湾で生まれ、旧制高校まで台湾で学んだ。昭和16年京都大学文学部哲学科に入学。昭和18年卒業後、海軍に入隊する。

戦後、昭和22年から県立旧制田辺中学、県立田辺高校で教鞭をとった後、愛知学芸大学助教授を経て、昭和29年より京都大学人文科学研究所に勤務。昭和43年同研究所教授、昭和57年所長として活躍する。昭和60年には京都国立博物館長に就任し、現在に至っている。

氏は、京都人文科学研究所において、桑原武夫氏らとともに哲学及びそれに関連する諸学を共同研究する中で、独創的な視点を拓き、日本史を古代から現代まで体系的に探求、『弁証法の系譜』『歴史と価値』『明治維新の分析視点』『神々の体系』といった著書に著わすなど、哲学の立場から、現代日本社会を構造的に解き明かした。このような氏の研究成果は、広く学界において評価され、日本を代表する哲学者として、文化の向上発展に尽くされている。

現代文化を日本文化の最深層にある縄文文化から解く方法論を氏は深層文化論と称し、展開しているが、そこには、氏の郷土に対する帰巢性から発した探求の形が強くみられる。郷里金屋町にある鳥屋城への思いから戦国山城の研究へ発展した『城と国家』・空海に関する多数の著書、論文にも郷里を流れる有田川の源、高野山への親愛感が感じられる。

また、日本文化デザイン会議代表の梅原猛氏と

■主な表彰歴

- 昭和43年 毎日出版文化賞
『明治維新の分析視点』
昭和62年度 京都新聞文化賞